

縄文の息吹を発信 縄文荒吐会が「とことん青森MAX」に参加

東京・原宿表参道で10月25日から11月7日まで行われた東北新幹線全線開業キャンペーン「とことん青森MAX」の中で、木造の創作太鼓演奏グループ「縄文荒吐会」(菊地嘉明会長)が3部構成の縄文太鼓を披露しました。

好天に恵まれた11月3日、明治神宮駐車場の特設ステージで荒吐会の会員18人が赤と黒の衣装をまとい、縄文土偶を模した面を付け、太鼓、鉦、笛を演奏しました。ステージ前には大勢の観衆が集まり、大きな拍手を送っていました。

初の首都圏公演を終えた菊地さんは11月8日、福島市長へ報告に訪れました。菊地さんはビデオや写真を使って当日の盛況ぶりを説明し、「最後にはステージを降りて演奏し、お客さんと一体となって盛り上がった。つがる市や亀ヶ岡文化をめいっぱいPRできた。これからも市のために活動がんばっていききたい」と充実感いっぱい熱い思いを語りました。



上／力強い演奏を披露する縄文荒吐会のメンバー



左／福島市長に報告する菊地嘉明会長(中央)

黄金崎こよさん100歳長寿おめでとう



家族に囲まれお祝いの記念写真

黄金崎こよさん(森田)が10月24日、めでたく満100歳を迎えられ、入所している特別養護老人ホーム明光園で長寿を祝いました。こよさんは明治43年10月24日生まれで深浦町出身。同町の要吉さんと結婚し、漁業と農業で生計を立て、8人の子供と孫23人、ひ孫30人、玄孫8人に恵まれました。

明光園を訪れた成田福祉部長が、赤い祝い着を着たこよさんに顕彰状と花束を贈呈し「1歳、2歳と年を重ねて長生きしてください」とお祝いの言葉を述べました。

こよさんは、大病を患うことがなく、長寿の秘けつは、腹八分目で好き嫌いなく食べることだそうです。次女の加藤みつよさんは「今まで長生きしてくれただけでありがたい。今までどおり元気でいてほしい」と話していました。

安心安全のまちづくりに役立てて 街路灯を寄贈

地域社会の明るいまちづくりの支援として、東北電力株式会社五所川原営業所(佐井順一所長)と株式会社ユアテック五所川原営業所(中沢正光所長)より街路灯2基が市に寄贈され、11月12日、市役所で寄贈式が行われました。両所長より目録を受け取った福島市長は「安全で安心なまちづくりに役立たせていただきます」とお礼を述べました。

両社は昭和45年から地域貢献活動の一環としてこの事業を行っており、今年は柏下古川地区に設置されました。



福島市長に目録を手渡す佐井順一所長(中央)と中沢正光所長(右)

つがる市出張所「すまいるプラザ」が移転リニューアルオープン

つがる市出張所「すまいるプラザ」が10月26日、移転リニューアルオープンしました。出張所は平成17年4月にイオンモールつがる柏内の西入口に開所。利用者は平成21年度約1万7,000人と開所時に比べ約2倍に増加し、事務・待合スペースが手狭になったため、イオンモール内のレストラン入口付近に移転しました。移転に伴い、来年度からは過年度分の税の収納や原付自転車のナンバー交付など業務を拡大する予定です。

リニューアルオープンを記念して出張所前では、福島市長、イオンモール金森修ゼネラルマネージャー、つがるちゃんがテープカットをしました。

また、つがるちゃんには、これまでの市や市農産物PRの功績を記念して福島市長から特別住民票が交付されました。



上／テープカットする（左から）金森ゼネラルマネージャー、福島市長、つがるちゃん
下／特別住民票を受け取り喜ぶつがるちゃん

すまいるプラザの業務内容（平成22年4月1日現在）

証明書等の交付	税・使用料等の納付
- 戸籍・除籍全部事項証明書（戸籍・除籍謄本） - 戸籍・除籍個人事項証明書（戸籍・除籍抄本） - 住民票の写し - 住民票記載事項証明書 - 印鑑証明書 - 戸籍の附票の写し - 住所変更証明書（一般のみ） - 所得証明 - 所得課税証明 - 課税証明 - 資産証明 - 営業証明 - 評価証明 - 事業証明（法人のみ） - 公課証明 - 納税証明 - 農地基本台帳登載証明	- 軽自動車税 - 固定資産税 - 市県民税（個人普通徴収のみ） - 国民健康保険税（現年度分の市税で納付書を持参し現金で納付する方に限る） - 介護保険料 - 住宅使用料 - 農業集落排水処理施設使用料 - 公共下水道使用料 - 公共下水道受益者負担金 - 奨学資金 - 保育料 - 霊園管理手数料 - その他使用料（納付書を持参し現金で納付する方に限る）

※平成23年3月までの第2・第4日曜日には納税相談を行っています。



休業日：年末年始（12/29～1/3）
業務時間：午前10時～午後7時
電話：0173-27-5021
FAX：0173-27-5067

つがる市総合計画 後期基本計画の策定にむけて



会長に就任した野呂隆昌氏を議長に話し合う審議委員

市では、つがる市総合計画（平成18年3月策定）に掲げる基本理念「新田の歴史が彩る 日本のふるさと」の実現にむけて、各種施策に取り組んできたところです。

総合計画の前期基本計画は、平成18年度から22年度までの5年間となっており、23年度から27年度までの後期基本計画の策定にむけ、11月8日、20人の審議委員が委嘱されました。委嘱状を交付した福島市長は「まちづくりは、市民のエネルギーと英知を結集し、市民と行政一体となって進めることが重要。積極的なご意見・ご提言をお願いします」とあいさつ。

その後開かれた第1回審議会では、市民ニーズの変化の把握や前期計画の評価などの作業内容を確認し、環境・ニーズの変化に対応した施策の必要性について話し合われました。後期計画は、平成23年3月に策定予定です。



魅力ある地域づくりをめざして交流

「第28回地域づくり団体全国研修交流会青森大会」が11月11日から13日までの3日間、青森県内を舞台に開催され、県内外から地域づくり団体や自治体関係者が集いました。

青森市での全体会に続き、参加者は県内15の分科会へ移動。つがる市では「縄文の歴史を活かしたまちづくり」分科会として、全国各地の地域づくり団体のメンバー13人が参加し、縄文住居展示資料館「カルコ」視察、りんご収穫体験、トークセッション、夜なべ談義などを通してNPO法人夢庭志仙会の会員らとお互いの地域づくりの活動や課題について意見交換しました。

毎日のお仕事ご苦労さま

木造西幼稚園(吉田節子理事長)の園児35人が11月4日、勤労感謝の日を前に市役所を訪れ、「毎日のお仕事ご苦労さます。これからもがんばってくださいね」と職員らに感謝の気持ちを伝えました。

園児らは、手作りのカレンダーとシクラメンの鉢植え、お菓子を職員へプレゼントした後、歌を披露しました。山本総務部長は「皆さんも先生の言うことをよく聞いて、毎日元気に過ごしてください」とお礼の言葉を述べ、プレゼントを渡しました。



読書の楽しさに触れる

地域における読書活動を推進しようと市教育委員会が10月23日、松の館で「つがる市読書まつり」を行い、親子連れら約70人が読書の楽しさに触れました。

読書まつりでは、野花菖蒲の会、森田小学校読みきかせボランティア、おはなしサークル「おひさま」、稲垣読書愛好会の会員が絵本や詩を紹介。また、ことばの積木で詩を作る体験を通して想像力を高めました。

最後に西北五つがる読書推進連絡会の藤田明夫会長が「皆さんも読み聞かせ活動に参加してみませんか」と参加者に呼びかけました。

汗を流し奉仕活動

シルバー人材センター事業普及啓発促進月間の一環としてつがる市シルバー人材センター(山内清美理事長)の会員ら約70人が10月19日、市役所周辺の幹線道路の清掃奉仕活動を行ないました。

清掃活動では、会員らがスコップや鎌を使い、道路脇や歩道の側溝にたまった土砂や枯葉などの除去や歩道の除草を行い、環境美化に汗を流していました。

作業終了後には、市役所周辺の道路はきれいになり、会員らは奉仕活動に充実感を感じていました。



鮮やかな模様の絵巻寿司完成

地産地消と食の大切さを学んでもらおうと市食育推進応援隊(原田ひとみ代表)が10月29日、絵巻寿司教室を松の館で開催しました。

教室には26名の市民が参加し、つくし生活改善グループ(山本七代会長)の指導のもと、つがるブランド農産物のコメを使った絵巻寿司を作りました。にんじんやほうれん草などの野菜の彩りが加わり、色鮮やかな文銭模様やさざんかの絵巻寿司が完成し、試食した参加者は絵巻寿司の模様の出来栄や味に満足していました。



学ぶ意欲いつまでも「長寿大学閉講式」

平成22年度つがる市長寿大学閉講式が11月18日、学生約90人が出席し、松の館で行われました。

閉講式では、学長の葛西教育長から各地区の代表者に修了証書が授与され、学生を代表して小山内兼一運営委員長が「学ぶことができることは、生活と健康に恵まれているおかげだと感謝し、少しでも家庭や地域社会に貢献できればと思います」と述べました。

閉講式終了後は、学生たちによるアトラクションが行われ、カラオケや踊りを楽しみながら、ともに学んだ仲間と交流を深めていました。

街の駅「あるびょん」1周年創業祭

高齢者や障害者にやさしいまちづくりと中心市街地の活性化をめざして昨年11月8日にオープンした街の駅「あるびょん」が11月13日から11月16日までの4日間、オープン1周年を記念して創業祭を行いました。

創業祭には、野菜の販売や屋台が並び、もち米のスコップすくい、ながいもスイトン振る舞いやお買い物抽選会など催しが行われました。14日には盲目のシンガーソングライター板橋かずゆきさんのミニコンサート、16日には岩手県花巻市の劇団代表・志村尚一さんの講演会が開催され、多くの市民が訪れ賑わいました。



弘前大学公開講座修了

平成22年度弘前大学公開講座が10月2日、9日、16日、23日の計4回、松の館で行われ、市民ら延べ約40人が受講しました。

10月23日の講座では「若者の働く力を育てよう」というテーマで学生就職支援センターの小磯重隆准教授が講義を行いました。小磯准教授は「最近、せっかく職に就いても数年で仕事を辞める人が増え、県内の若者の正社員の割合が低い。最初からすべてが楽しい仕事などなく、仕事の中に楽しい部分を見つけられる能力を身に付けることが大切」と話していました。

講座終了後、受講者は今年度の修了証書を受け取りました。